

りんご Apple

休眠期から生育期まで
幅広い病害を防除。
また残効性に優れ、各種
薬剤耐性菌にも有効。



FUNGICIDE/BEFRAN25% LIQUID FORMULATION

幅広い適用病害
優れた抗菌力!

クミアイ

ベフラン®

液剤25

イミノクタジン
酢酸塩

かんきつ Citrus

かんきつ貯蔵病害の
予防に優れた効果を発揮。
また青かび病、緑かび病の
各種薬剤耐性菌にも有効。



小麦 Wheat

種子消毒から雪腐病、
赤かび病防除まで、
幅広く優れた効果を
発揮する総合殺菌剤。



■有効成分:イミノクタジン酢酸塩…25.0% ■人畜毒性:医薬用外劇物

特長

- 幅広い抗菌スペクトラムを有した総合殺菌剤。
- 優れた予防・保護効果。
- 他剤とは異なる作用性で、各種耐性菌にも有効。

■適用病害と使用方法 *印は、収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数と本剤及びイミノクタジンを含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数*		使用方法
					本剤	イミノクタジン	
麦類 (小麦を除く)	雪腐大粒菌核病	1,000倍	60~150ℓ/10a	根雪前	2回	3回 (種子への処理は1回 散布は2回)	散布
	紅色雪腐病	10倍	乾燥種子1kg 当り30~50ml	は種前	1回		塗沫処理
	条斑病、網斑病、ふ枯病	5倍	乾燥種子1kg 当り15~25ml				
	斑葉病	原液	乾燥種子1kg 当り3~5ml				
	なまぐさ黒穂病	250~500倍	—				
小麦	赤かび病	1,000~2,000倍	60~150ℓ/10a	*14日	3回 (出穂期以降は1回)	4回 (種子への処理は1回 散布および無人 ヘリ散布は合計3回 出穂期以降は1回)	散布
	うどんこ病、葉枯症			根雪前			
	雪腐大粒菌核病	1,000倍	は種前	1回	塗沫処理		
	紅色雪腐病	250倍					乾燥種子1kg 当り30~50ml
	条斑病、ふ枯病	10倍					乾燥種子1kg 当り15~25ml
	なまぐさ黒穂病	5倍					乾燥種子1kg 当り3~5ml
	紫紋羽病	250倍	—	苗木植付前	—		8回 (液剤および水和剤は 合計6回 (開花期以降は3回) 塗布剤は2回)
腐らん病	500~1,000倍	*前日	6回 (開花期以降 散布は3回)	展葉期			
モニリア病、腐らん病	1,000倍						
黒星病	1,500倍						
ぶどう	斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、すす点病、すす斑病	1,500~2,000倍	200~700ℓ/10a	*前日	3回 (休眠期は1回) 生育期は2回)	3回	散布
	晩腐病	250~500倍		休眠期			
	褐斑病、黒とう病、つる割病	250倍		*60日			
なし	黒星病	1,000倍	200~700ℓ/10a	収穫後~休眠期	2回	5回 (塗布剤は2回、液剤は1回)	散布
	黒斑病	250倍		休眠期			
もも	縮葉病	250~500倍	200~700ℓ/10a	休眠期	3回	3回(休眠期は1回)	散布
みかん	貯蔵病害(黒腐病、白かび病、すす斑病)	2,000倍		*前日	2回	2回	
かんきつ (みかん、ゆずを除く)	青かび病、緑かび病	2,000~3,000倍	200~700ℓ/10a	*前日	2回	2回	散布
ゆず	黒腐病、白かび病、すす斑病	2,000倍		貯蔵病害(青かび病、緑かび病)	2,000~3,000倍	2回	
	貯蔵病害(黒腐病、白かび病、すす斑病)	2,000倍					
マルメロ	腐らん病	1,500倍	100~300ℓ/10a	展葉期	4回 (開花期以降散布は3回)	4回 (開花期以降は3回)	散布
かりん	腐らん病	1,500倍					
アスパラガス	茎枯病	1,000倍	100~300ℓ/10a	収穫終了後(冬期まで)	5回	5回	散布
りんどう	花腐菌核病、葉枯病	1,500倍	100~700ℓ/10a	—	8回	8回	

この箇所は登録適用拡大・変更になったものです。

⚠ 効果・薬害等の注意

- イミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用してください。
- ホルダー液とは沈殿を生じるので混用しないでください。
- 麦類の種子消毒の場合、吹き付け処理は専用の種子消毒機を使用し、薬液が種子に均一に付着するようにしてください。また塗沫処理の場合は適当な容器内で種子をかき混ぜながら薬液を滴下するなどして、種子に均一に薬液を付着させてください。
- 小麦に対して希釈倍数250倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した兼用型(速度連動式)地上液剤散布装置を用いて均一に散布してください。
- りんごに使用する場合、以下のことに注意してください。
 - 芽出し2週間過ぎから落花後40日頃までは、さび果、花そうでの軽微な不整葉を生じることがあるので、この時期の散布はさけてください。
 - モニリア病防除に使用する場合は、この時期の西洋なしには薬害を生じることがあるので、近接している場合にはかからないように注意してください。
 - 紫紋羽病防除に使用する場合は、苗木発芽後の処理では展葉を阻害する傾向があるので発芽後の処理はさけてください。また、苗木根部に付着した土壌をできるだけ除去したのちに処理してください。
- アスパラガスに使用する場合は、次のことに留意してください。
 - 若葉に薬液が付着すると茎が曲がることがあるので留意してください。なお、このことによる養液成への影響はみられていません。
 - 夏期高温時の散布では針葉(葉葉)が白化することがあるので、使用濃度を守り、朝夕に散布してください。
- 日本なし、もも、うめなどの果樹、いね、きゅうり、あぶらな科作物、まめ類には、薬害を生じることがあるのでかからないように注意して散布してください。

- かんきつの施設栽培で果実の着色終了前に使用する場合は、果実に着色むらを生じるおそれがあるので、降雨時などの極端な多湿条件下での散布はさけてください。
- ぶどう晩腐病(休眠期散布)の防除の際、500倍では効果が劣ることがあるので、多発が予想される場合には250倍で使用してください。ハウス栽培(特に加温ハウス栽培)では、果実に葉斑を生じるおそれがあるので散布はさけてください。
- 薬に対して毒性があるので薬にはかからないように注意して散布してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、農業改良普及センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の担当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の担当を受けてください。
- 眼に対して強い刺激性があるので薬液調整時および種子消毒の際には保護メガネを着用して薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の担当を受けてください。

- 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすようにしてください。
- 使用の際は、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣、ゴム長靴などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗剤が衣類を汚すと同時に、衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 水産動物への影響:水産動物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないよう調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管:密栓し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼な所にキャップをかけて保管してください。盗難・紛失の際は、警察に届け出てください。

使用量に合わせて薬液を調整し、使いきってください。空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

*本資料は2017年11月現在の登録内容に基づいています。